

教育施設等のセカンドスクールの利用について

教育施設等におけるセカンドスクールの利用とは、県が所管する12施設及びその他の44協力施設において、児童生徒が学校を離れ、郷土の自然や文化との触れ合い体験や共同生活体験等の取り組みを複合的に実施する活動です。

そしてその学習活動は、教科や総合的な学習の時間等の授業時数としてカウントすることができ、さらに県教育施設では、社会教育主事や学芸主事等が学校の教員と連携して授業を実施することで、より効果的な学習活動を行うことができます。

文化・芸術施設4館の活動紹介

今回は、美術館、近代美術館、博物館、農業科学館における、単なる「来て」「見て」だけの活動で終わらない、「触ったり」「考えたり」「表現したり」といった活動を組み合わせた事例を紹介します。

農業科学館「りんごの学習」 ～りんごの成長とともに学ぶ～



りんごの木の開花から結実までの間、4回の体験活動を通し、りんごの成長から学びます。

近代美術館「鑑賞+製作体験」 ～感じて、つくる～



展覧会の作品に登場する動物から着想を得て絵を描き、描いた後は大きな台紙に貼って全員で鑑賞会を行います。

県立美術館「アートカード」 ～自分でつくる展覧会～



美術館所蔵作品のアートカードを使い、テーマに合った自分だけの展覧会をつくって他の人と発表しあいます。

県立博物館「旧奈良家」 ～昔の家の中で学ぶ～



約270年前に建てられた旧奈良家住宅の中で、昔の人の暮らしや昔の人が使っていた道具について学びます。

この他にも各館では、人数や利用時間に対応した多様な学習活動を用意しています。「主体的・対話的で深い学び」の契機として、積極的な利用をお待ちしております。

【問い合わせ先】 秋田県教育庁生涯学習課 生涯学習・学芸振興班
〒010-8580 秋田市山王3丁目1-1 TEL:018-860-5183 FAX:018-860-5816
E-mail Kyou-shougai@pref.akita.lg.jp

ビブリオバトル 県大会決勝進出の

生徒対象のビブリオツアーを開催しました

1月3日に行われたビブリオバトル秋田県大会で決勝に進出した、5名の中学生及び4名の高校生を対象とした「ビブリオツアー」を開催しました。今回のツアーの概要を、子どもたちの声と写真を交えて紹介します。

1月27日（土） ポプラ社において、作家のドリアン助川さんとの座談会に参加しました



【『あん』執筆の経緯について話されるドリアンさん】



【ドリアンさんに対して質問をする生徒】

参加者の声

- ・ドリアン助川さんは、実際にハンセン病患者が隔離されていた場所に足を運んだり、差別をされていた話を聞いたりして「生きる」ということについて書いてくださった。そのようなことを知ってから改めて読むと、ただの物語としてではなく、現代の社会と照らし合わせて読むなど、違った読み方があると思った。
- ・『あん』に込められた助川さんのたくさんの思いなどから、人間の永遠の疑問である「生きるとは何か、死ぬとは何か」が、私なりに分かったような気がした。私は、将来の夢がはっきりとは見えていないが、たくさんの人に支えてもらって今があることに感謝しながら、目の前にある小さな目標から実現できるよう努力したい。
- ・私たちが文字で伝えられない部分をくみとって文章として翻訳してくれる、そんな小説家という立場からの話が聞けたことはとても貴重な経験になった。
- ・今回の体験を通し、私は人と人とのつながりの大切さに再び感動することができた。特に、ドリアン助川さんとの座談会で、それを強く感じた。本や映画などの一行やワンシーンでも、私たち読者は何も考えず読んでしまうことが多いと思う。しかし、そこには作者の思いやその本や映画をつくるために関係した人々とのつながりがあったことに私は気づくことができた。

1月28日（日）午前 国会図書館国際子ども図書館を見学し、子ども読書の世界に浸りました

参加者の声



子ども図書館では、世界中の児童書や絵本、また児童書の歴史にふれた。絵本や児童書は子ども向けだからこそ美しい表現がされており、持ち時間の1時間だけではとても足りなかったのもまた機会があれば行きたいと思った。

1月28日（日）午後 早稲田大学井深ホールで行われた全国ビブリオバトル高校生大会に臨みました



【早稲田大学の大隈重信像の前で記念撮影】



【堂々と本の紹介をする秋田南高校の古谷さん】

参加者の声

- ・チャンプ本に選ばれた人の勝因は、本選び、プレゼンの最初のつかみ、結末の気になるような話のもっていき方、最後の締めの言葉だと思う。これらのポイントがおさえられていることで、聞く側をドキドキ、ワクワクさせ、より興味を引きつけるような内容になったのだと思う。だから、もし今後、またビブリオバトル大会に参加させていただく機会があるなら、それらのポイントをおさえ、聞く人の心を動かすようなプレゼンができるようになりたい。
- ・一人一人の「この本のよさをみなさんに伝えたい」という気持ちが伝わってきた。来年のビブリオバトルでは、今回学んだことを生かして、もっとたくさんの人が「その本を読んでみたい」と思ってくれるような紹介を考えたい。
- ・秋田県大会のチャンプが出場するこの大会では、終始、鳥肌がとまらなかった。人の話を聞いてこんなに衝撃を受けたのは初めてだった。出場者一人一人の本に対する愛がとても伝わってきて、「なんて幸せがあふれた会場なんだろう」と思えた。

問合せ先：社会教育・読書推進班 電話：018-860-5184